

連携歯科医療 ～良質な医療を社会に還元するために～

深町 博臣 先生

「連携歯科医療」という用語は、当会第5回記念学術大会において与五沢文夫先生が「Interdisciplinary dentistry」の訳語として紹介し、「各領域の知識や技術を併せて、より高度な視野や技術で一つの症例を治療していくこと」と定義している。また、「Comprehensive dentistry：包括歯科医療」との違いについて、Interdisciplinary dentistry は包括歯科医療を行なうための一つの方法論であるが、一人の術者が全ての領域をこなすことを Comprehensive dentistry と表現することとは異なり、複数の歯科医が協力し合って治療を行なおうとする診療姿勢であると説明している。

その上で、人の欲求の形は社会が円熟するにつれ、多様化し複雑化してゆく事や、歯科医師数がこの30年間で2倍以上になっている事等の社会の変化に伴って、歯科医が役割分担を行なうという事は、時代の変化に伴う必然性であると述べている。

しかし残念ながら、我が国の歯科医療環境において、連携歯科医療は主流とはなり得ていない。

要因として、臨床に関わる社会の制度の問題、卒後の専門研修制度が確立していない事や歯科医師需給バランスの崩壊などが考えられる。

良質で安全な矯正治療を社会に還元するためには、幅広い臨床能力を持つ一般歯科医師と矯正専門医とが信頼関係の中で連携できる医療環境が望ましい。

JIOは、これまで矯正臨床環境の整備に向け、専門医制度の確立に務め、連携歯科医療を推奨してきた。本大会では、連携歯科医療の理解を深めて頂くために、JBOが認定した矯正専門医1名と私が地元で連携させて頂いている一般歯科医師1名にご登壇頂き、症例を供覧頂く。

深町 博臣 先生

新潟市開業 ふかまち歯科矯正